

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	子ども家庭局子育て支援部こども若者成育課
評価対象期間	令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 3 1 日

1 指定概要

施設概要	名 称	北九州市立もじ少年自然の家	施設類型	目的・機能
			I	— ⑤
	所 在 地	北九州市門司区大字喜多久 7 8 4 番地の 1		
	設置目的	子どもたちが、大自然の中の集団生活・野外活動などの体験を通して、規律、協同、友愛、奉仕の尊さを学び、心身ともにたくましい少年を育てることを目的とする。		
利用料金制		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
		インセンティブ制 有・無	ペナルティ制 有・無	
指定管理者	名 称	玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体		
	所 在 地	北九州市小倉北区堺町一丁目 6 番 1 5 番		
指定管理業務の内容		・ 施設の使用許可権限の代行 ・ 施設の使用受付及び使用料金収受事務 ・ 事業の企画、実施 ・ 施設の維持補修等のメンテナンス ・ 警備・清掃業務 ・ その他施設の管理運営 等		
指定期間		令和 5 年 4 月 1 日～令和 1 0 年 3 月 3 1 日		

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント					
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み					
(1) 施設の設置目的の達成					
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。					
② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取り組みがなされ、その効果があったか。					
③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。					
④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。					
【所 見】					
① 指定管理業務の実施状況					
○ 5つの基本方針					
『利用者・利用団体の充実した活動、教育目標が達成できる施設づくり』『利用者利用団体第一主義の施設づくり』『効率的、効果的なマネジメントの推進』『地域・他施設・団体との連携強化』『平等・安全・安心の施設づくり』に基づき、利用者・利用団体の教育目標の達成を支援するプログラムの提供を行い、期間を通して施設の管理運営（指定管理業務）を計画的に実施した。					
■施設利用者数（延べ人数）				【単位：人】	
	【参考】R4年度（更新前）	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
要求水準	43,000	10,000	20,000	42,000	20,500
目標値	45,000	12,000	20,000	42,000	20,500
実 績	20,424	25,295	25,612	27,401	—
※ ・・・評価対象年度					
※ 令和7年度は、新型コロナウイルス感染症の収束に伴う利用者数の回復を見込み、要求水準の基準を感染症拡大以前の数値としていたが、利用者数は27,401人（65.2%）と要求水準を下回る結果であった。利用団体数は482団体であり目標値の460団体を上回った。 昨年度実績と比較すると、利用者数は107.0%、利用団体数は106.6%の増減率で、ともに増加している。また、感染症拡大以前の最高実績（令和元年度）と比較すると、利用者数は44,629人に対して61.4%にとどまっているが、利用団体数は501団体に対して96.2%と概ね回復してきている。 利用者数が伸び悩んでいる要因として、市内の小中学校の在籍生徒数が年々減少してきており、1団体あたりの人数が小規模化してきていることが影響していると考え					
② 利用者増への取り組み					
○ 開所日数 350 日					

- 主催事業実績 年間 36 回
新規事業：ネイチャープレイパーク、親子で学ぶ SDGs
もじフィッシングクラブ、もじアドベンチャークラブ など
- 特別開催事業 ユニカール年間 73 回
- ボランティア養成事業 研修 4 回（ボランティア登録者数 19 名）
- 学校、市民センター等へ着衣泳。カヌー体験の講師派遣（カヌー用具貸出）
- 市民センターへ生き物講座、クラフト指導等の 出前講演の実施
- 閑散期対策として平日の体育館・ホールの利用の推進
- 福岡県海浜保護地区利用の市民へトイレ利用機会の提供
- 市外学校等の誘致

これまで、市内小中学校の受入れ行事の日程は、前年の冬頃に決定していたが、これを他の指定管理者青少年施設と共同で、教育委員会と調整し、令和 3 年度から、「前年度の夏まで」に決定するよう前倒しした。その結果、それまで市外施設を利用していた市外の学校等に広報出来るようになり、結果、計 23 校（玄海 9 校、かぐめよし 5 校、もじ 9 校）の申込みがあった。

③ 複数施設の一括管理

- 指定管理者は、玄海青年の家、かぐめよし少年自然の家についても指定管理業務を受託しており、各施設の事業内容に応じて施設相互間での効率的な「人材の運用」や「資材の運用」などが実施できている。特に繁忙期の主催事業や受入事業を共同で行うことで人員効率化を図ると同時に、職員同士で青少年育成に向けた専門的な知識や経験を研鑽しあう場となっている。

④ 営業・広報活動

- もじ少年自然の家ホームページ運用実績 年間更新 118 回

■ホームページ訪問者（実人数）

【単位：人】

	【参考】R4年度（更新前）	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
年間訪問者数	12,095	13,910	17,512	17,583	－
日平均訪問者数	33.1	38.1	48.0	48.2	－

※ ・・・評価対象年度

※ 令和 7 年度は、ホームページ年間訪問者数が 17,583 人（前年度比 100.4%）と微増であった。年間 118 回の更新により必要な情報に効率的に到達できる構成となったことや、継続的な情報発信に努めたことで新たな利用者層の閲覧に繋がっているものと考えられる。

- フェイスブック 年間 38 回更新
- インスタグラム 年間 73 回更新
- X 年間 75 回更新
- 利用促進案内の発送、マスコミへの広告依頼
- 所報「いさんだの浜」 年間 4 回発行
- 市内・市外小学校へのチラシ配布 など
- 過去の参加者への電話案内や次期主催事業のチラシ配布
- 市外の学校、教育施設へ利用促進の DM800 通を発送した

- マスコミへの告知依頼
- 市政だよりの活用
- 子ども家庭局こども若者育成課発行「キッズチャレンジ」の主催事業広報
- もじ少年自然の家ユーチューブチャンネルの運用

(2) 利用者の満足度

- ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

[所 見]

① 利用者の満足度

※ 令和7年度は、利用者アンケート（回収率 100%）の全項目の平均値（非常に良い＋良い）が 97.3%で、目標値の 94.0%を上回った。前年度比は 100.1%と微増であった。項目ごとにみると「利用目標、目的達成度」「所員対応」「施設の使いやすさ」「食事の量」が特に高い評価であった。次年度以降も利用者利用団体第一主義を目指し、利用者の教育目標に向けた施設のサービス力向上に期待する。

■アンケート結果（平均値）

	【参考】R4年度（更新前）	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
目標値	96.1%	92.4%	93.1%	94.0%	-%
実 績	95.9%	95.1%	97.2%	97.3%	-%
有効回答数	185 件	304 件	351 件	367 件	-件

※ ・・・評価対象年度

- 子ども用アンケートの実施（対象：94 団体 アンケート回収：162 枚）

令和7年度は、子ども用アンケート5項目の平均値（非常に良い＋良い）が 95.9%と高い評価結果となった。施設のサービス向上を目的として、令和5年7月より利用団体の児童生徒から個別アンケートを収集及び分析を始めた。児童生徒の目線で施設のプログラムや設備、食事内容について意見をいただきながら、次年度以降も施設のサービス向上を目指すことに期待する。

② 利用者の意見への対応

- 事業ごとに成果や課題を報告書にまとめ、PDCA サイクルでの改善を実施した。
- 利用者アンケートの結果を所内で定期的に検討し改善に努めた。
- 利用者にとってより心地よい活動の場とするため、所内の環境整備の推進などに全員で取り組んだ。
- 安全管理に関することは朝礼終礼で周知し、迅速に改善し、利用者の安全確保に努めた。
- 食事内容の充実を図るため、アンケート結果を基に、食堂業者と施設職員が合同で試食会や新規メニューの開発研修を実施した。

③ 苦情・要望への対応

- 大きな苦情はなかった。
- 指定管理者研修でクレーム対応を学び、所内会議で職員への伝達研修を実施した。
- 新規採用職員はマナー研修を受講し、社会人としての基本的なマナーを学習した。
- 人権研修等を通じて、施設利用者への対応マナーを習得した。

④ 情報提供

- プログラム実施にあたって、天候や安全対策などを情報提供した。
- ホームページ上では、常に最新の空室情報へ更新した。
- 食堂と連携し、食中毒や食物アレルギーなど、食事に関する最新情報を提供した。
- SNS を利用して、タイムリーな施設情報を利用者へ提供した。
- 本館ロビーに、施設周辺の自然の情報を伝える「スナメリブース」を設置し、入所者はもとより主催事業等で活用した。
- フリーWi-Fi の導入など、施設内の通信機器環境を改善した。

⑤ その他

- カヌー用具の活用で、主催事業の内容と幅をより広げることが可能となった。
- トラックを活用することで、合同研修や自主事業など、施設相互間で効率的な資材の運用が可能になり、利用者のみならず、地域への幅広いサービスなどが可能となった。
- 施設前に広がる福岡県海浜保護地区を利用する市民へ、駐車場やトイレを提供し、好評を得ている。
- 海浜清掃活動を行う団体に、ゴミの収集場所の提供を行うなど、積極的に市民活動に協力することができた。

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取り組みがなされ、その効果があったか。
- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

【所 見】

■指定管理料

【単位：千円】

	【参考】R4年度（更新前）	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
予 算	77,561	78,963	78,418	78,916	－
決 算	77,561	78,963	78,418	78,916	－

■総事業費

【単位：千円】

	【参考】R4年度（更新前）	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
目標値	79,255	79,063 ※1	79,198 ※3	80,386 ※5	－%
有効回答数	78,345	80,027 ※2	79,210 ※4	79,792 ※6	－件

■うち光熱水費

【単位：千円】

	【参考】R4年度(更新前)	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
目標値	6,640	4,966 ※1	5,849 ※3	7,121 ※5	-%
有効回答数	5,344	4,884 ※2	6,322 ※4	6,518 ※6	-件

※ ・・・評価対象年度

※ 表中の数値には、次の食堂利用分の費用を含む

※1 食堂利用分 396 千円

※2 食堂利用分 998 千円

※3 食堂利用分 630 千円

※4 食堂利用分 1,145 千円

※5 食堂利用分 1,270 千円

※6 食堂利用分 1,434 千円

① 経費低減のための取り組み

- 特に光熱水費に関しては、職員による日頃からの節約意識の徹底、電力契約先の変更、照明のLED化を推進している。
- 節水シャワーヘッドへの変更。
- 個別空調システムの導入。

② 再委託の状況

- 電気工作物保安業務、消防設備点検等
法令上必要なもので、資格を持った業者によって適切に管理運営されている。

③ 経費の効率的・効果的な執行

- 共同企業体会議の場で予算執行状況の報告や業務遂行状況を確認。
- ホームページの自主製作、自主運用による経費削減。
- 修繕工事などの再委託業者の選定について、2社以上の見積りによる経費低減。
- 共同企業体の技術担当員が定期的に巡回点検を実施し、不良個所の早期発見により修繕費を抑制している。
- 多くの職員を必要とする業務で、施設相互間での効率的な人材運用を図ることによる人件費の抑制。
- 主催事業や所内整備を行う際に、各施設で人員を融通することにより、1施設の人員数を超えた運用を図ることができた。

■施設間の職員派遣

行先	もじ ⇒ 玄海	玄海 ⇒ もじ
日数	4 日	38 日
延べ人数	13 人	45 人
行先	もじ ⇒ かぐめよし	かぐめよし ⇒ もじ
日数	11 日	11 日
延べ人数	32 人	30 人

(2) 収入の増加

① 収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。

[所 見]

■収入

【単位：千円】

		【参考】R4年度(更新前)	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
利用料金	予算					
	決算	142,850	249,285	436,600	597,720	-
シーツ代	予算					
	決算	762,840	1,042,020	1,166,580	1,302,120	-
自主事業	予算	84,000	57,000	87,000	132,000	-
	決算	76,945	116,046	106,725	140,563	-
その他	予算	200,000	100,000	150,000	200,000	-
	決算	65,790	95,086	73,886	112,565	-

※ ・・・評価対象年度

※ 表中の「自主事業収入」は自動販売機手数料による収入

※ 青少年施設の性質上、市内の中学校のふれあい合宿、小学校の自然教室や社会教育関係団体の利用（10割減免、シーツ代（クリーニング費用）のみ実費請求）が大半を占めるため、使用料収入の大幅増は期待できない。令和4年度（新型コロナウイルス感染症の収束）以降、学校の宿泊利用が再開され徐々に増収となっている。

① 収入増加のための取り組み

- 新聞各社、市外の広報誌への主催事業の掲載など、積極的な広報活動や市立学校の予約前倒しによる受入れ体制の整備等。
- 減免規定のない「市外利用者」の施設利用促進を図るため、福岡県及び下関市の学校に利用案内を発送。
- 主催事業等のDMの発送及びホームページ、SNSでの情報発信
- 利用者用Wi-Fi設置によるサービスの向上。
- 閑散期における体育館、会議室等の利用促進を図るため、ホームページで日帰り利用の予約状況公開など、過去の利用団体等に連絡。
- インターネットから主催事業の申し込みができるよう整備し利便性を向上。

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取り組み

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況

① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。

② 職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。

③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

[所 実]

① 人員の配置

- 繁忙期には、共同企業体にて有資格者及び指導者を適宜配置し、専門的な指導、安全管理業務など、幅広く対応した入所者サービスを提供。

- 施設相互間で協同し、主催事業や所内整備を効率的・効果的に実施。
- ② 職員の資質・能力向上
 - 消防、津波等、防災に関わる研修を定期的実施。
 - 安全管理、人権、暴力団対応などの研修による職員の資質向上。
 - 本施設における将来の展望、活動内容、設備改善などについて、社会教育認定団体員、地域活動団体員の計3名に委嘱し、運営協議会を開催。
- ③ 地域や関係団体との連携
 - 柄杓田みなと公園・喜多久貴船神社・施設周辺県道の草刈、柄杓田校区の行事、海浜清掃活動、門司学園高校所有林および風師山登山道の整備等。
 - 市民センターにおいて、生き物講座、クラフト、カヌー体験等の講師派遣。
 - 小学校において、着衣泳の講習、カヌー体験会の出前講師、用具貸出。
 - 水環境館、響灘ビオトープにおいて、カヌー指導者の派遣。
 - 第七管区海上保安本部、保安官を招聘し主催事業での安全講習会を実施。また、第七管区海上保安本部対象の「海難防止にかかわる安全推進ミーティング」を青少年施設職員が指導。
 - 第七管区海上保安本部 マリンアクティビティ安全推進団体として水辺の安全啓発活動を門司海上保安部と主催事業の中で開催。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

- ① 施設の利用者の個人情報保護するための対策が適切に実施されているか。
- ② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。
- ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。
- ④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。
- ⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。
- ⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。
- ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

〔所 見〕

- ① 個人情報の保護
 - 指定管理者で「個人情報保護規定」「個人情報保管規定」を策定。日頃からの職員への周知、徹底を図っている。
- ②③ 平等利用、公平選定
 - 利用団体の教育目標を最優先とし、それに対する施設の効用が最大限に発揮できるように、公平・公正な運営が適切に実施されるよう努めている。
- ④ 収支状況
 - 指定管理者で「会計処理規定」「物品購入規定」「修繕工事の発注に関する規定」「講師謝礼規定」などを策定。これらに基づく適正な会計処理を行う。
- ⑤ 事故防止などの安全対策
 - 安全基準を明確にする「主催事業実施基準」「プログラム実施基準」「野外活動プログラム安全対策マニュアル」などを策定。職員に周知徹底するとともに、適宜安全研修を実施。

- 利用者に対して、施設の安全管理を説明するなどの指導を実施。
 - 他青少年施設の職員と協同で、増加する食物アレルギーに関する情報を日々更新し、改善策を講じている。また、学校受入れ時は、食堂事業者での対策後、配膳時に学校、施設、食堂事業者の3者の立会いのもと、再度確認を徹底するなど、慎重な対応を行っている。
 - エレベーター救出訓練、救急救命研修など、安全管理研修を実施。
 - 他の青少年施設等と合同で、安全大会を実施し、各施設の事故、ケガについて情報共有すると同時に、気象庁や保険会社、海上保安庁から講師を招き、研修会を実施している。
 - 安全管理マニュアル等については、毎年見直しを行っている。
- ⑥ 危機管理体制
- 指定管理者の本部専門職員による月1回の巡回により、施設や設備機器等の定期的な診断を実施。
 - 気象情報の把握を安全基準に基づき活動の中止を決定。
 - 消防・防災訓練を年2回実施し、自衛組織を強化。
 - 人権・暴排研修を実施。
 - 防犯カメラを玄関前に設置し、防犯強化を図っている。
 - ドローン器具またドローン操作資格者を配置している。
- ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応
- 大きな災害はなかったが、日頃から訓練や用具の準備を行い、安全な事業の実施を心掛けている。
 - 自然教室で活動中の小学五年生男児がプログラム活動中、山中の道で転倒する事故が発生したが、速やかに通報し傷病者の救急搬送を迅速に行うことができた。
 - 施設前の海浜において、溺水者を過去2回救助。海上保安庁から「マリンアクティビティ安全推進団体」に全国第一号として認定され、今年度も海上保安庁と協力して主催事業参加者へ安全啓発活動を実施した。

【総合評価】

[所 見]

- 令和 7 年度の利用実績は、延人数実績 27,401 人、目標対比 65.2%と目標には達成できず、過去 6 年間の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う利用者の減少から回復できない現状が続いている。しかし、一方では団体数が目標 460 団体に対し実績 482 団体（目標対比 104.8%）と増加しており、団体の利用機会を増加させている点は評価できる。次年度以降も、利用者や利用団体の増加に向けて利用者第一主義を基本方針にかかげ、ホームページや SNS を多用して施設の魅力を発信して、利用者数の回復を期待したい。
- 利用者アンケート結果では、指定管理 3 期目を迎え、ホスピタリティあふれる職員の対応が基盤となり、総合的に利用者から高い評価を維持している。また、アンケート結果を所内で検討し PDCA サイクルを活用して、より居心地良い環境改善へと取り組む体制も高く評価できる。
- 経費低減のための取り組みとして、職員の日頃からの意識の徹底や LED 化の推進などによる光熱水費の減額、2 社以上からの見積合わせによる物品購入や修繕工事、他の青少年施設との相互の人材運用などによる人件費の抑制に努めている。
- 職員の資質・能力向上を図るため、新任研修、安全管理研修、専門研修を実施し、さらに福岡県、九州県内の会議や研修にも積極的に職員を派遣している。利用者アンケート結果からも、特に「所員の対応」については、非常に高い評価（非常に良い：91.2%）を受けており、指定管理業務全般において適切な管理運営が行われ、社会教育施設としての教育目標を達成しており高く評価できる。
- 市民センターや小学校、他施設へ、様々なプログラムや用具を提供し出前講習を実施し施設内にとどまらない少年自然の家の活動を市内で展開しており評価できる。
- 施設に隣接する地域の草刈りや清掃活動等のボランティア活動や地域行事にも積極的に参加し地域との連携を継続している。
- 安全対策や危機管理体制についても、指定管理者で個人情報や会計処理に関する規定を設けており、さらに「野外活動プログラム安全対策マニュアル」などを基に、安全な事業実施のため、中止、催行の判断を行い、事故ケガの無い安全安心のプログラムを提供している

[今後の対応]

- 指定管理業務の 5 つの基本方針を基に、利用者第一主義の取り組みを継続し、15 の管理運営方針に則った運営を維持されたい。また、施設の広報強化、教育プログラムの創意工夫などを推進し、次年度も設置目的達成に向けて適正な管理運営を期待したい。